

令和6年度
宇陀市まちづくり活動応援補助金
成果報告書



宇陀市 政策推進部 市民協働課

令和7年 12月

目 次

「宇陀市まちづくり活動応援補助金」の概要	3
補助金の額	3
審査・評価の方法	3
審査委員	3

各事業の成果 ※以下事業名()内は実施団体名

(1) 向渕の歴史を継承する	4
(向渕の歴史を継承する会)	
(2) 辰砂水銀資料を次世代へつなぐ事業	5
(「菟田の」辰砂水銀資料を遺す会)	
(3) 城山城跡及び龍口城跡を中核にした地域活性化事業(ふるさと歴史「生き」「活き」プラン)	6
(龍口地区活性化プロジェクトチーム)	
(4) 宇陀松山 薬草 発酵 博覧会の開催	7
(宇陀の薬草を全国に広める会)	
(5) 宇陀の観光資産の整理と活用事業	8
(紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会)	
(6) 宇陀三将 澤氏と澤城の講演・発掘担当者による講演澤城跡・澤下城跡から出土品の展示	9
(宇陀市の神話と歴史を考える会)	
(7) 大師山石仏群の保全と活用事業	10
(大師管理委員会)	
(8) 東大和高原の自然と暮らし体験	11
(東大和高原探検倶楽部)	
(9) 森と音楽「エストニアと宇陀の夏至祭」	12
(宇陀の森と音楽実行委員会)	
(10) ～関係人口と地元住民が共創する地域活性化を目指して～	13
(NPO幸せのバトン)	
(11) 宇陀松山親子寺小屋	14
(UDAミニバスケットボールスクール)	
(12) 榛原駅イルミネーション事業	15
(イルミネーション実行委員会)	

「宇陀市まちづくり活動応援補助金」の概要

この補助金は、市民が主役のまちづくり並びに地域の個性を生かしたまちづくりを推進し、市の発展に寄与することを目的として、市内で活動する市民団体が自ら企画立案し、実施する事業に要する経費を補助することにより、市民活動の促進を図ろうとするものです。補助対象事業は公募方式により募集し、第三者機関(宇陀市まちづくり活動応援補助金審査委員会)による厳正な審査を経て決定します。

補助金の額

補助金の額は、補助の対象となる経費の総額から当該事業の実施によって得られる収入を差し引いた額とし、50万円を上限とします。事業が継続して必要と認められる場合は、自立・発展性の観点から2年目は40万円を上限とし、3年目は30万円を上限とします。ただし、算出した額に1,000円未満の端数があるときは、これを切り捨てるものとします。

審査・評価の方法

①一次審査(書類審査)

補助金の対象事業として要件を満たしているか等の審査を行います。

②二次審査(公開プレゼンテーション)

以下の基準に基づき審査し、交付の優先順位を決定します。

新 規 性	・事業内容に新しい発想、アイデアがあるか。
	・自主性をもった企画・運営となっているか。
	・地域活動支援の目的と合致しているか。
公 益 性	・事業の成果が広く地域に還元されるものか。
	・事業参加の機会が広く住民に与えられているか。
	・市の施策と方向性が合致しているか。
	・応募者以外の市民や事業者、団体等に不利益を与えるものではないか。
必 要 性	・地域の実情や住民要望に対応したものか。
	・地域の課題解決、あるいは活力向上に有効なものであるか。
	・ほかの方法で代替できないものであるか。
	・経費の使途が適切なものか。
実 現 性	・目標(達成すべきこと)が明確なものか。
	・関係者との合意形成や応募団体等の内部での実施態勢が整っているか。
	・資金調達の規模や時期に無理はないか。
発 展 性	・市の支援が終了した後の継続性や自立性、発展性は期待できるか。

審査委員

氏 名	所属・職
新 元 秀	公募委員
野 崎 章	公募委員
山 本 保 二	公募委員
林 雅 子	公募委員
染 川 幸 史	奈良県地域創造部県民暮らし課
鴻 池 昭 英	宇陀市役所 副市長

※成果報告会(令和7年12月13日)現在

向渕の歴史を継承する【新規】

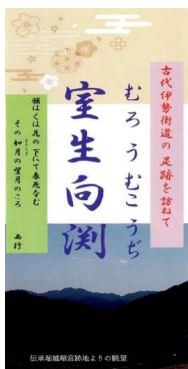
補助金額
499,000円

向渕の歴史を継承する会

補助事業の実施内容

自治会役員会・協議会等での会発足説明と今後事業への位置付け依頼
古代伊勢街道における倒木撤去・枝打ち・草刈り・ブロック撤去等の継続整備
街道案内杭30本設置と案内看板設置位置に関する地権者への個別説明・同意取得
「室生向渕」パンフレットの自治会各戸配布と市・店舗への設置依頼による情報発信
観光課HP掲載や撮影事前相談等、外部からの活用要望に対応する相談窓口機能

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、古代伊勢街道の倒木撤去・草刈り等の整備作業を継続的に実施し、歴史的資源を安全に辿れる環境整備を進めることができた。案内杭の設置等により、地域資源の位置付けやルートに見える化が進み、来訪者にとって分かりやすい受け入れ環境の整備につながった。また、自治会役員会等での説明・調整を行い、事業を地域内で共有しながら進めたことにより、地域合意の形成や協力体制の強化にも寄与した。

今後は、整備したルートの維持管理を継続しつつ、案内内容の充実（見どころ説明、注意事項、マップ等）により、個人来訪者にも利用しやすい環境へと発展させる。また、活動の担い手確保に向けて、会員拡大や協力者の巻き込みを進め、作業負担の平準化と継続性を高める。加えて、地域の歴史資源を活かした交流・学習機会の創出（散策会、学習会等）を検討し、継承活動の裾野拡大につなげる。

名 称	向渕の歴史を継承する会
所在地	奈良県宇陀市室生向渕878番地
設立の経緯・目的	年々忘れ去られていく向渕地区を通る古代伊勢街道を中核として歴史・伝承を後世に伝える事、散策コースとして整備し向渕地区の活性化になる事を目的とする
主な活動内容	1.向渕地区の歴史を古文書及び伝承から探求し、歴史・伝承を記した散策マップを作製し広報する 2.向渕地区を通る古代伊勢街道を整備し、古道案内看板を設置し散策コースとする

辰砂水銀資料を次世代へつなぐ事業【新規】

補助金額
500,000円

「菟田の」辰砂水銀資料を遺す会

補助事業の実施内容

規約確認・役員選出・事業計画作成による会の発足と運営体制整備
定例会議・学習会を通じたヤマト環境センター・地元自治会との関係構築と情報共有
埋蔵文化財センター等、県内外施設での視察・研修による会員学習の充実
「探しています」パンフレット作成・新聞折込による辰砂水銀資料・情報の収集活動
「大和水銀鉱山のパネル」制作と中間報告会開催による市民啓発と成果発信

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、辰砂・水銀に関する廃坑跡等の現地踏査、関係者への聞き取り、関連資料の収集を行い、散逸しやすい記録・情報の把握を進めることができた。加えて、調査結果の中間整理としてパネル制作や展示を実施し、市民や来訪者に対して地域の産業史・文化史としての価値を示す機会を創出した。中間報告会の開催により、単なる資料収集にとどまらず、地域内での理解形成や協力者の掘り起こしにもつながり、今後の調査継続に向けた足がかりを得た。

今後は、収集した資料の整理・分類・保存方法の検討を進め、共有可能な形（展示資料、冊子、データ化等）での体系化を図る。また、地域の関係者・研究者・行政等との連携を強化し、調査の継続性を高めるとともに、教育・観光・地域学習への活用可能性も検討する。さらに、展示や報告の場を継続的に設け、理解の裾野を広げながら、保存・継承のための担い手確保と運営体制の安定化につなげていく。

名 称	「菟田の」辰砂水銀資料を遺す会
所在地	奈良県宇陀市菟田野平井953-2
設立の経緯・目的	大和水銀鉱山が閉山(1971年)して半世紀が過ぎ、ほとんどの若者は鉱山があったことさえ知らない。また、水俣病の惨禍もあり、水銀という言葉さえ忌避する社会風潮さえあるなかで、すべてが忘れられようとしている。辰砂水銀資料を遺す活動を通して、郷土の歴史を知るとともに、「水銀」を正しく理解することに資することを目的とする。この貴重な歴史的資料を次世代に繋ぐのは、今に生きる地元の我々の使命であると考え設立に至った。
主な活動内容	①宇陀市内に残る水銀資料の発掘・保存 古代史と辰砂・水銀(神武東征、薬狩り等) 水銀遺構の調査(廃鉱山等) 大和水銀鉱山(歴史・聞き取り・遺物収集等) ②水銀の功罪(不思議とSDGSの観点で)を学習・啓発 ・活動①②で得た資料をまとめ・整理 ・冊子・展示・講演会の開催・WEB等の媒体を通して広く一般に公開 ・(仮)「朱のまち宇陀」として観光資源につなげる

城山城跡及び龍口城跡を中核にした地域活性化事業 (ふるさと歴史「生き」「活き」プラン) 【3年目】

補助金額
300,000円

龍口地区活性化プロジェクトチーム

補助事業の実施内容

龍口不動滝・陀羅滝・俱呂滝周辺の歩道整備・崩壊箇所修復・倒木除去・階段・手すり設置によるハイキングコース整備

城山城跡トレッキングコース上の枯木・倒木伐採によるハイキング客の安全確保

城山・龍口城跡頂上付近での名張市錦生地区との合同桜植樹による県境交流の促進

龍口大滝ハイキングコース上の案内板・滝名称看板設置による利便性向上と周知

パンフレット「忍びの里をゆく」の作成・増刷と配布による歴史・観光資源の情報発信

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、城山城跡・龍口城跡周辺の登山道や滝周辺の整備を実施し、安全性と利便性の向上を図ることができた。具体的には、通行上の支障となる箇所の改善や案内環境の整備を進め、地域外からの来訪者にとっても利用しやすい環境づくりに寄与した。さらに、案内板の設置により、資源の位置関係や見どころが分かりやすくなり、回遊性向上と滞在時間の延伸が期待できる状態となった。地域の自然・歴史資源を「訪れて体験できる資源」として整えるという点で、一定の成果を得た。

今後は、整備箇所の維持管理(点検、倒木・落石等への対応、季節変動への配慮)を継続し、安全対策を恒常的に確保する。また、城跡・滝・周辺集落などを結ぶルートの見せ方を工夫し、周辺地域との連携による広域的な周遊企画の検討を進める。併せて、案内情報の充実(マップ、デジタル情報、注意喚起等)を図り、初めて訪れる方にも分かりやすい受け入れ環境を整えることで、持続的な誘客につなげる。

名 称	龍口地区活性化プロジェクトチーム
所在地	奈良県宇陀市室生龍口473番地 龍口地区集会所内
設立の経緯・目的	城山城跡及び龍口城址について名張市錦生自治協議会と共同してトレッキングコースの整備が行われ、今後これを歴史遺産の中核と位置づけて、龍口活性化のため利用しようと設立した。本チームは、以下に掲げるような共同活動を行うことにより、龍口地区における環境整備等により龍口地区の活性化を期することを目的とする。
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・城山城址及び龍口城址を中核とした地域活性化事業 ・里山の歴史ある有形文化遺産を整備することにより地域の活性化を図る ・両城跡(有形の文化財)及び龍口獅子舞(県及び宇陀市無形文化財)の保存とコラボ ・龍口地区の環境美化活動並びに映画・ドラマのロケ地として紹介するための広報活動

宇陀松山 薬草 発酵 博覧会の開催【3年目】

補助金額
300,000円

宇陀の薬草を全国に広める会

補助事業の実施内容

複数会場での薬草・発酵に関する講演会・ワークショップ・観察会・施術の実施
各会場でのマルシェ開催による薬草・発酵関連商品や農産物を通じた「薬草のまち宇陀」のPR
全国の専門講師・出店者招聘と視察会・交流会による他地域とのネットワーク形成
岩清水地区ヨモギ農家との連携による摘み取り体験・ワークショップと薬草栽培拡大のきっかけづくり
薬草・薬木苗および農産物販売を通じた農家の薬草づくりへの関心喚起と来場者交流の創出

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、薬草発酵博覧会を複数会場で開催し、薬草の魅力や宇陀市の取組を広く発信することができた。来場者や関係者が一堂に会する場を設けたことで、薬草に関わる生産者・事業者・専門家等の交流が進み、ネットワーク形成に寄与した。また、薬草を「健康」「発酵」「食」等の切り口と結び付けて提示することで、これまで薬草に馴染みの薄かった層にも関心を持ってもらう契機となり、「薬草のまち宇陀」の認知度向上に一定の成果を得た。

今後は、全国的なネットワークを一層強化し、薬草産業の振興（販路拡大、商品開発、体験プログラム等）と人材育成（担い手、伝え手）を両輪で進める。また、イベント開催の継続に向けて、運営体制の安定化、協賛・連携先の拡大、収支構造の検討を進め、持続可能な事業モデルの確立を目指す。さらに、市内の他分野（観光、福祉、教育等）との連携を深め、薬草を軸とした地域価値の創出と発信を継続していく。

名 称	宇陀の薬草を全国に広める会
所在地	宇陀市大字陀西山91
設立の経緯・目的	「薬草のまち宇陀」を全国に広めるため、大字陀地区で今まで独自にマルシェを開催していた、奈の音、久保本家酒造、報恩寺が、マルシェを同時開催。従来のマルシェはもとより、「薬草：発酵」の専門家の講演会やワークショップなど新しいイベントを開催することを目的に設立した。
主な活動内容	1.「宇陀松山 薬草 発酵 博覧会」の開催 2.薬草講座「暮らしに役立つ薬草講座」初級、中級の開催 3.宇陀市民向け「薬草観察会」開催 4.宇陀で薬草を栽培する農家の支援

宇陀の観光資産の整理と活用事業【4年目】

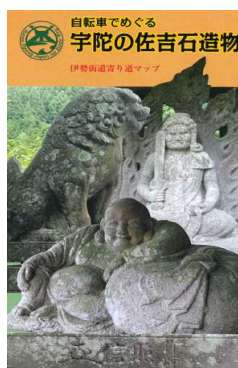
補助金額
200,000円

紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会

補助事業の実施内容

季節ごとの観光情報を伝える『宇陀こよみ』第1～3号発行とDM発送による継続的情報発信
平井大師山石仏群行事への協力・意見交換による管理委員会との連携強化
「宇陀の歴史をたどるウォーク②」コース下見と本番開催による歴史体験機会の提供
「佐吉石造物サイクル・マップ」増刷による自転車観光ツールの整備
佐吉講演会・石仏群研修会開催によるガイド育成と歴史資産理解の促進

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、季節情報誌「宇陀こよみ」の継続発行や、ウォークイベント、講演会等を実施し、宇陀市の歴史文化資源を多面的に発信することができた。紙媒体とイベントを組み合わせることで、地域資源に対する理解促進だけでなく、実際の来訪・回遊につながる導線づくりに寄与した。また、事業実施を通じて、企画運営のノウハウ蓄積、関係団体・協力者との連携体制の強化が図られ、今後の継続展開に向けた基盤整備にもつながった。

今後は、限られた運営体制でも継続できるよう、企画・広報・当日運営の役割分担を明確化し、運営負担の軽減と継続性の向上を図る。また、既存の歴史資源の紹介にとどまらず、地域内の他団体の取組や観光資源と横断的に連携し、テーマ型の回遊企画や周遊ルート提案など、来訪者の行動につながる情報発信を強化する。加えて、参加者の反応や課題を踏まえた改善(告知方法、開催時期、導線設計等)を重ね、事業の質向上を図る。

名 称	紀伊半島交流会議 伊勢街道分科会
所在地	宇陀市大字陀上新1925番地
設立の経緯・目的	「紀伊半島交流会議」は「吉野・熊野の霊場と参詣道」の世界遺産登録を見据えて、平成16年3月末に歴史街道推進協議会の呼びかけで結成された。その中で「伊勢街道分科会」は伊勢街道沿いの歴史や文化にふれ、そこに住む人々との交流を深め、伊勢街道を軸としたネットワークの構築を目的として結成された。
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・古道を歩き、道標や常夜灯、宿場町などの歴史的資産の調査をし、その情報を発信するためにウォーキングイベントを開催している。 ・平成19年からは風景街道「伊勢街道」連絡協議会において中心的な役割を担い、フォーラムの開催やマップの作成をはじめ、地域の団体とともに古道の復興や道標の再建など、街道の歴史的資産の保全活動を進めている。

宇陀三将 澤氏と澤城の講演・発掘担当者による講演 澤城跡・澤下城跡から出土品の展示【2年目】

補助金額
400,000円

宇陀市の神話と歴史を考える会

補助事業の実施内容

宇陀三将シリーズ最終回としての天野教授による「澤氏と沢城」講演会開催
元文化財職員による澤城跡・澤下城跡発掘調査説明による城の歴史理解の深化
総合センターでの文化財資料・発掘資料展示による学びの場の提供
澤氏三代に関する冊子約200部の発行による宇陀三将関連出版物の整備
三城の歴史的価値を地域活性化に生かすことを意識した啓発・情報提供

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、澤氏および澤城に関する講演会・資料展示を実施し、地域の歴史理解を深める機会を提供することができた。専門的知見を分かりやすく共有することで、市民の関心喚起と学習機会の充実につながった。また、事業成果を冊子として取りまとめたことで、当日参加できなかった方も含めて成果を共有でき、今後の研究・学習活動の基礎資料として活用できる状態となった。

今後は、冊子を起点にさらなる資料収集・整理を進め、調査研究の継続性を確保する。また、展示・講演の継続開催や、学校・地域団体との連携による学習機会の拡充を検討し、次世代への継承につなげる。さらに、史跡の保存・活用の観点から、地域内外の関係者との連携を深め、地域資源としての価値を共有しながら、持続的な普及啓発を図る。

名 称	宇陀市の神話と歴史を考える会
所在地	宇陀市菟田野佐倉408
設立の経緯・目的	6年前に「宇陀三将」芳野氏、秋山氏、澤氏の末裔の方が参加した戦国の群像宇陀三将サミットを実施した。その後、三氏の城山の赤色立体地図を作成した。また、芳野城跡の整備事業及び講演会も開催した。今回は秋山氏の群像に焦点を当てて学ぶことを目的とした。
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 資料を集め、冊子を製作する イベントや講演会の開催

大師山石仏群の保全と活用事業【新規】

補助金額
500,000円

大師管理委員会

補助事業の実施内容

語り部育成勉強会と成果発表会による平井住民ボランティアガイド6名の養成
大師山石仏群～厳山登山コース下見ウォークと山道草刈り等による参道整備
朽ちた丸木手すり撤去と鋼製ベンチプラ欄48m設置による安全性向上
大師寺会式後のガイド育成講座開催による住民・来賓への学習機会提供
大師山説明会(ウォーク)実施に向けた準備による石仏群案内体制の構築

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、参道の安全対策整備を行い、来訪者が安心して通行できる環境の改善を図ることができた。併せて、ボランティアガイドの育成や広報活動を実施し、単なる整備にとどまらず、地域資源を「案内し、伝える」仕組みづくりに取り組んだことが特徴である。これにより、参拝・観光の受け入れ体制の強化と、地域資源に対する理解促進に寄与した。
今後は、育成したガイドを核に、案内活動の定着と質の向上(案内内容の整備、研修の継続)を図る。また、来訪者の導線を意識した情報提供(マップ、掲示、発信媒体)を強化し、他団体や周辺資源との連携により、地域全体の回遊性向上を目指す。加えて、整備箇所の維持管理を継続し、安全性の確保と景観の維持を図る。

名 称	大師管理委員会
所在地	奈良県宇陀市菟田野平井259番地
設立の経緯・目的	本会は平井地区にある高野山真言宗派の大師寺における年間行事の実施と、寺をとりまくように配置された約100基に及ぶ江戸時代末期に建造された石仏群とその巡拝路の保全、管理を目的として、平井自治会内において組織されました。
主な活動内容	主な活動としては、毎月21日の法要は平井地区を6班に分けて、各班交代で行っています。特に3月21日の会式では、石仏寄進者の子孫を招いて護摩法要や御供撒き等を行ってきました。6月下旬と9月上旬には平井自治会の協力を得て全区民50軒が総出で巡拝路の周辺と土手の草刈りを実施。近年では他団体からの協力者も参加していただけるようになりました。他には巡拝路の補修や手すりの整備、樹木の伐採に加えて、本堂や休憩所の屋根や雨樋に積もる落ち葉や枝の掃除などを随時行っています。春と秋には100本以上ある山桜や紅葉のライトアップを2週間にわたり行って参拝者を招いています。

補助事業の実施内容

タウナギ・ザリガニ釣りとは試食体験による地元食材開発の可能性探究
「宇陀ジビエ堪能ツアー」開催によるジビエの現状・活用方法の学びの提供
宇陀の里山での記念植樹イベントによる参加者・寄贈者・地元の交流の場づくり
ジビエイベント拠点となる公園整備と植樹空間の継続活用
団体立ち上げ期における補助金活用イベント実施と収益化トライアルの基盤づくり

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、自然体験やジビエ活用を含むイベントを実施し、里山の魅力を体験型で発信することができた。地域資源を「体験」として提供することで、参加者に対して地域への理解・愛着を促し、交流人口の拡大に寄与した。また、活動拠点の整備を行い、今後の継続的な事業実施に向けた受け入れ環境の基盤整備が進んだ点も成果である。

今後は、体験プログラムを継続的に実施しながら、リピーター獲得や発信力の強化を図る。また、運営の安定化に向け、収益化の可能性(体験料設定、商品販売、協賛等)や安全管理体制の整備を進め、持続可能な活動へ発展させる。さらに、地域内事業者や他団体と連携し、里山資源の多面的活用(教育、観光、食)を展開することで、地域活性化への波及効果を高める。

名 称	東大和高原探検倶楽部
所在地	奈良県宇陀市室生三本松3948
設立の経緯・目的	宇陀市の地域資源を活用した体験型観光により地域の活性化を図る。今後、市内の体験教室事業者や宿泊事業者をつなぎ、体験メニューを増やすことで、滞在日数の拡大で地域経済の活性化に寄与したい。
主な活動内容	1) ジビエ(特に鹿)を利用した体験型の観光商品開発(燻製づくり体験、獣道の見つけ方や動物の習性・猟師体験、栄養講座や料理体験などのワークショップを開催) 2) 地域に生息しているスッポンやタウナギ、ザリガニなどを活用した新しい商品の開発

森と音楽「エストニアと宇陀の夏至祭」【新規】

補助金額
500,000円

宇陀の森と音楽実行委員会

補助事業の実施内容

エストニア・日本各地からのゲスト招聘による2日間の夏至祭イベント実施
6月21日・陽月の森での開会式と関係者交流の場の設定
6月22日のシンボルツリー演出・マーケット・コンサートによる森と音楽の体験提供
延べ200人超の来場による音楽祭・マーケットを通じた地域内外交流の創出
エストニアと宇陀の文化・歴史・環境紹介による相互理解と情報発信の推進

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、国際色豊かな音楽イベントを開催し、文化交流を通じて宇陀市の魅力を発信することができた。地域住民に対しては、日常では得難い文化体験の機会を提供し、文化的な豊かさの向上に寄与した。また、イベント運営を通じて、関係者間の協働体制が形成され、今後の継続開催に向けた運営経験の蓄積にもつながった。

今後は、イベントの規模・内容・開催形態を検討し、運営負担と効果のバランスを踏まえた継続モデルを構築する。また、教育分野との連携（子ども向け企画、ワークショップ等）や企業協賛の獲得など、運営基盤の強化を図る。さらに、宇陀の自然環境や地域資源と結び付けた企画（ロケーション活用等）を検討し、宇陀ならではの文化発信として定着させる。

名 称	宇陀の森と音楽実行委員会
所在地	奈良県宇陀市大宇陀関戸444-2
設立の経緯・目的	“Estonia&Udaプロジェクト”により、以前から宇陀市と交流のあったエストニア。2024年3月にエストニアと宇陀が文化交流するイベント「夏至祭(6月)」を開催しようと有志が集まった。2024年欧州文化首都に選出された南エストニアで開催されるフェスティバル「AiguOm!」のコンセプトである「森と音楽と暮らし」を共有し、海外との文化交流に関心が高い市民と、エストニアの関わりの深い者として設立した。エストニアをはじめ、海外との文化交流、イベント開催を目的とする。
主な活動内容	<p>■毎年6月に＜森と音楽「宇陀の夏至祭」＞を開催 2024年6月第1回目をエストニアのアーティストを招き開催。来年以降も同時期に開催する計画。イベントはオンライン配信または動画編集し、国内外に向けて発信する。</p> <p>■エストニアとの継続的な文化交流 エストニアとの文化交流、情報交換を継続的に行う。時にはオンラインなども活用し交流状況を発信する。</p> <p>■海外の文化交流 積極的に海外と宇陀市の音楽、文化交流の窓口を行う。</p>

～関係人口と地元住民が共創する地域活性化 を目指して～【2年目】

補助金額
296,000円

NPO幸せのバトン

補助事業の実施内容

春夏秋の田舎体験イベントによる自然体験・食づくり・移住相談の機会提供
空き家古民家巡りツアー13回実施による移住希望者等への現地案内
放課後児童クラブとの山里体験や地域施設ネットワーク化・動画制作・空き家講義等の協働取組
室生の森広場ヤッホーでの遊具・トイレ整備による屋外活動拠点の機能強化
YouTube発信と空き家見学支援による関係人口増加と実際の移住促進

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、空き家ツアー等を通じて移住希望者との接点を創出し、具体のマッチングや移住につながる成果を得た。現地案内や相談対応を通じて、移住者が抱える不安や課題を把握し、地域側の受け入れ課題の可視化にも寄与した。また、関係人口の拡大や地域内外のネットワーク形成が進み、移住促進に向けた実働体制の強化につながった。
 今後は、移住後の定着支援(生活・仕事・地域参加の伴走)を強化し、移住者が地域の担い手として継続的に関わる仕組みづくりを進める。また、空き家所有者・地域団体との連携を深め、物件情報の掘り起こしや受け入れ体制の整理を進めることで、マッチングの質と量の向上を図る。さらに、相談の標準化(手順、情報整理、記録)を進め、属人的になりがちな支援の安定化・継続性向上につなげる。

名 称	NPO幸せのバトン
所在地	宇陀市室生下田口1462-3
設立の経緯・目的	身近に関係人口を増やすような体験イベントがあれば、より容易に宇陀市への移住が実現できたのではないかという思いがあった。宇陀市の自然や歴史、人々のつながりの素晴らしさを伝え、体験してもらい、宇陀市の地域活性化につなげることを目的とした。
主な活動内容	1) 地域のネットワーク作り 2) 地域内外への体験型情報発信・体験型イベントの企画、立案、運営: 「田舎」体験ツアー、「空き家(古民家)」巡りツアー、森の中でのリモートワーク体験、子ども向けプログラミング体験、植樹体験、「地域ネットワーク」巡り、「田舎の風景」の動画・ライブ発信、リモートなんでも相談など

補助事業の実施内容

毎週土日開催による簿記学習会の継続運営
小学生～大人までの多世代が参加する学習の場の提供
パソコン教材活用と個別指導による各自のペースに応じた学習支援

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、親子寺子屋事業を通じて、子どもから大人まで幅広い世代に学習機会を提供することができた。家庭だけでは確保しづらい学習時間・学習環境を地域で支える仕組みとして機能し、学習意欲の向上や親子の関わりの深化にも寄与した。また、継続実施のなかで運営上の課題(周知、参加動機、内容構成等)も把握でき、今後の改善に資する知見を得た。

今後は、学習内容や教材の充実、参加者のニーズ把握を行い、より参加しやすく効果が実感できるプログラムへ改善する。また、地域の協力者(学習支援者、関係団体等)との連携を広げ、運営体制の安定化を図る。さらに、継続的な学びの場として定着させるため、開催頻度や告知方法の整理、参加者フォローの工夫など、事業継続の仕組みを整える。

名 称	UDAミニバスケットボールスクール
所在地	宇陀市大字陀下本2175
設立の経緯・目的	代表が大学生の頃、大字陀の中学を指導しており、京都で開催された近畿大会に出場した際にミニバスケットを知り、奈良県最初のミニバスケットボールチームを結成した。今では4歳児から小学6年生までの8年間の教育を町おこしとリンクして進めるユニークなミニバスケットボールチームとして注目を集めている。
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・4歳児、5歳児対象 45分の日曜教室 ・週1教室(小学校1年生から6年生) 90分の日曜教室 ・週2強化(小学校1年生から6年生) 土曜、日曜の前日練習 ・朝のオンライン寺子屋 毎朝6時15分から6時55分 ・月1回の親子寺子屋 第1土曜日の8時30分から10時 ・ゲスト大会(毎月、近畿の強豪を集めた大会を開催) ・12月の宇陀市長杯をはじめ年間7回の400人規模の大会を開催

榛原駅イルミネーション事業【3年目】

補助金額
300,000円

イルミネーション実行委員会

補助事業の実施内容

近鉄榛原駅北口・南口周辺へのLEDイルミネーション装飾による景観美化と賑わい創出
「I♡UDA」看板制作・設置による地域PRとフォトスポット化
11月末～2月下旬までの毎日17時～24時点灯による冬季の恒常的演出
複数回の実行委員会開催による設置場所・許可・施工・撤去の調整体制構築
宇陀商工会・青年部との連携による地域振興と防犯対策を目的とした主体的運営

【事業実施の様子】



補助事業の成果と今後の活動に向けて

本補助事業により、榛原駅前イルミネーションを実施し、駅前空間の景観向上と賑わいの創出に寄与した。夜間の明るさ確保により、防犯意識の向上にもつながる取組となった。また、市民や学生ボランティアが参加することで、地域協働によるまちづくりの実践機会となり、関係者間の連携や役割分担の経験蓄積にもつながった。

今後は、設置・撤去・保守等の運営手順を整理し、誰が担っても一定の品質で運営できる体制づくりを進める。また、若年層の継続参画を促す仕掛け(役割の見える化、参加の動機付け、学習・体験要素の付加等)を検討し、自主運営体制への移行を図る。さらに、駅前の回遊や商店街等との連携可能性も視野に入れ、地域の賑わいづくりとして定着させる。

名 称	イルミネーション実行委員会
所在地	宇陀市榛原篠楽160-1
設立の経緯・目的	地域住民の方々から、駅周辺の活性化の要望があったため、冬場の駅前をイルミネーションで飾りつけ景観美化を行うことによる活性化を期待し、平成14年から青年部により活動を開始。今後、さらなる事業規模拡大のため、実行委員会を設立した。
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーション実施期間中:イルミネーションの設置及び設備維持、撤去作業 ・イルミネーション実施期間以外:毎月1回会議を開催。次のイルミネーション事業における実施内容を打ち合わせして決定する